

チルト機能が効果発揮

金杉建設（埼玉県春日部市、吉川祐介社長）が、埼玉県三郷市の江戸川河川敷にMC（マシンコントロール）バックホウなどで刻んだ新年メッセージ「2022 POWER」が、15日に完成したII写真。繊細な作業が求められるメッセージ作成には、チルト、チルトローテータ機能搭載のMCバックホウが効

金杉建設



果を發揮した。日本キヤタピライ合同会社、コベルコ建機日本、ソフトバンクが協力した。

社会インフラを利用するPRプロジェクト「2022 POWER」は、地域の活力を向上し、最新の施工技術の普及・研さん、高度化を図るのが狙いで、湯澤工業（山梨県南アルプス市）の湯澤信常務が発起人だ。同社は21年12月に山梨県中央市の釜無川河川敷で第1号を完成させている。金杉建設は3事例目となる。

国土交通省本省がICT施工や河川管理の手続きなどで協力し、関東地方整備局江戸川事務所が、金杉建設が施工するR3三郷・吉川河川維持工事の一部を工事に支障がない範囲でフィールドとして提供した。

12日から15日にかけて掘り進め、13日には各企業のほか、国交省、関東整備局の関係者が見学した。1文字当たりの大きさは縦約12尺、横約5尺。左側にはi-Constructio

nのロゴマークを刻んだ。日本キヤタピライ合同会社のMCバックホウ「320」は、バケットを45度傾けるチルト機能を搭載する。佐藤通泰さん

は「車体の傾斜関係なく、機体が正対しなくても作業でき、バケット角度を自動補正する。油圧ではなく電気信号で制御するため、省燃費、CO₂削減にもつながる」と語った。コベルコ建機日本のMCバックホウ「SK75SR」は、バケットを左右45度まで傾け（チルト）、360度回転（ローテータ）できるチルトローテータ機能を装備している。営業本部シヨベル営業部ホルナビ推進グループの永井秀和氏は「用地が狭い現場でも、バケットを傾けて斜めから自由自在に整形作業ができる。ICT施工を広める活動に協力したい」と話した。

ソフトバンクの高精度測位サービス「ichimill（イチミル）」も活用した。サービスマス企画技術本部コアソリューション統括部測位ソリューション部測位ソリューション2課の狩野恋那氏は「全国3300カ所以上に独自の基準点を設けており、高精度の測位を実現できる」と強調した。金杉建設の担当者も「補正情報配信料が他社に比べて低価格だ」と絶賛する。

吉川社長は「チルト機能は建機の移動が少なく、バケットを斜めにしながらの繊細な作業が可能で、想像以上に活躍した。国内にはチルト機能を搭載したMCバックホウの機種が少ないが、もっと普及すべき」と強調した。

国交省の担当者は「建設業を良くしようという取り組みを応援したい」と述べた。

